



## おわりに

「はじめに」でも述べましたが、現時点でパンデミック状態が続いている新型コロナウイルス感染症は、地域の医療提供体制と住民の受療行動に大きな影響を与えています。その結果、「コロナラダメージ」と呼ばれる他の傷病への影響、例えば、がん検診受診率の低下や受診控えによる院内がん登録数の減少、救急医療における救急搬送困難事案の増加などが指摘されています。

このような中、日本では少子高齢化が加速すると同時に、人口減少が進みつつあります。静岡県もその例外ではありませんが、医療提供体制の構築や医療提供体制を支える医療人材の育成は一朝一夕にはできません。特に、専門性の高い医師を育成するためには、医学部卒業後10～15年程度のキャリアデザインが非常に重要です。

このようなことから、地域における医療提供体制を考える上で、現状の課題に対応しつつも将来において医療需給のミスマッチを生じないようにするためには、少なくとも今後20年前後、つまり日本全体の人口動態が大きな転換点を迎える2040年頃までの推移を見据えた、本県における医療の大きな方向性（ランドデザイン）が必要ではないかと考えています。

静岡県保健医療計画では、「疾病又は事業及び在宅医療ごと」に全県と二次医療圏単位の医療連携体制が示されていますが、高度・専門医療等では二次医療圏を越えた広域連携も必要です。一方、地域包括ケアシステムに基づく医療介護連携の重要性が増す中、市町は県とともに介護保険の保険者として、介護サービスの確保と居宅サービスにおける在宅医療との連携の充実・強化が求められています。

本資料集では、全県や3つの地域（東部、中部、西部）に加え、二次医療圏や市町単位のデータをできる限り一冊に盛り込みました。これからの20年前後、特に団塊の世代が75歳以上となる直近の5年以内で二次医療圏や市町の姿が大きく変化し、地域における医療・介護の需給両面に大きな影響が見込まれることを皆様にご理解いただき、本資料集をご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、平素から本講座の活動にご支援いただいている静岡県健康福祉部医療局、各健康福祉センターならびに県内医療関係者の皆様、本学教職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和3年（2021年）12月

浜松医科大学 医学部医学科 地域医療支援学講座  
竹内 浩視

表紙写真：日本平夢テラスから三保の松原・駿河湾越しに望む富士山（静岡市清水区）

裏表紙写真：夜明けの東名高速道路 EXPASA 富士川（上り）から望む富士山（富士市）

浜松医科大学 地域医療支援学講座 令和3年度（2021年度）研究報告（資料集）

「グラフで見る静岡県の将来推計人口と医療介護需要予測」

令和3年（2021年）12月

発行：国立大学法人浜松医科大学 医学部医学科 地域医療支援学講座  
（静岡県寄附講座）

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号

TEL/FAX 053-435-2446



浜松医科大学

Hamamatsu University School of Medicine

医学部 地域医療支援学講座